

1 前年度 評価結果の概要	<p>・昨年の保護者アンケートからは、客観的におおむね良好な結果が得られた。PTAや地域からの協力や理解が大きく、生徒もそれに応えようと努力する姿が徐々に増えてきた。職員も「出番・役割・承認」のサイクルのもと、生徒指導主事を中心として、自己肯定感を高める開発的生徒指導についての研修を重ねながら、生徒の指導に一丸となって取り組んでいる。学力向上については、来年度に向け課題が残った。PDCAサイクルを機能させ、さらに学力向上についての研修を重ねる必要がある。、小中連携の研究指定を活用して「学力向上」のために小中で共通した学習規律の確立を図り、授業においては指導法の研修を深め、教師の指導力及び生徒の学力向上を図っていく。また、家庭学習については特に課題が多い。家庭学習の充実のために保護者に生徒の実態を把握してもらい、危機感を感じながら家庭の協力を得られるようにする。家庭やPTAと連携の強化を図りながら全ての職員が共通理解のもと、基本的な生活習慣を定着させるとともに生徒会の取組についてもさらに充実させていく。また道徳を中心とした心の教育にも今後さらに重点を置いて進めていく。</p>
--------------------------	--

2 学校教育目標	自他の「いのち」を尊び、自立し貢献できる生徒の育成
-----------------	----------------------------------

3 本年度の 重点目標	1 学力の向上 3 人権意識の高揚	2 生徒指導の充実 4 働き方改革の推進
------------------------	------------------------------------	---------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
重点取組			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・マイプランの記入について共通理解を図り、記入の時間を確保する。
	○基礎学力の向上に向けた授業実践	○定期テストで基礎的な内容の正答率が80%に達した生徒の割合を70%にする。	・授業の中での復習(小テスト)の時間の確保
	○家庭学習の充実	○各テスト前に2時間以上家庭学習した生徒の割合を60%にする。	・24の日(ノーメディアデー)での呼びかけを有効に活用する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒70%以上	・TTによる授業を組むことで、生徒の声をひろい、思考を深めたり、心の変容に気づいたりする。 ・生徒が様々な意見を出しやすい雰囲気をつくる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめの防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取り組み、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員が95%以上	・いじめの覚知・認知時の連絡・連携体制を整える。 ・いじめに気付く力を身に付けるための研修会を年間1回以上開催する。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上 ○朝食を食べる割合90%以上	・食育講演会やおさかな教室等を活用して食への関心を高める。 ・各学級1回は学活の時間に食育指導を行う。
	○体位・体力の向上	○新体カテスト結果が前年度比を上回る ○健康に関する講演会の実施	・体カテストの結果をもとに、体育の授業で補強・補充運動を取り入れる。 ・学期の初めに毎回、体カテストを実施し、体力の向上の伸びを把握させ、体力向上への意識を高めさせる。 ・健康への意識が高まるよう工夫する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間、年間360j時間)を遵守する。 ●働きやすい職場のためのラインケア、セルフケアの推進	・定時退勤日の設定。 ・部活動休養日の設定と確実な実施。 ・会議のペーパーレス化、文書等の共有化での会議、事務の効率化を図る。 ・毎朝の教職員への声掛けと健康観察を心掛ける

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
◎志を高める教育	○目標をもって主体的に活動できる生徒の育成を目指したキャリア教育の実践	○学校生活に関するアンケートで、「学校生活や部活動で目標をもって活動している」と回答をした生徒70%以上	・職業講話や職場体験学習、進学説明会等の計画的な実施 ・キャリア・パスポートの活用
○特別支援教育の充実	○教員の特別支援教育に対する意識の向上	○特別支援教育の視点を取り入れた教育活動上の工夫を、各自4つ以上実践する。	・特別支援教育の視点を取り入れた教育活動上の工夫の例示。 ・特別支援教育に関する研修の実施。 ・ケース会議の実施、情報共有。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育